

平成30年度 松江農林高等学校 学校評価表

経営目標	重点目標	目標達成のための方策	評価指標 【アンケート項目】	目標値	アンケート結果			教員 評価	外部 評価	主な取り組み	達成状況	今後の方向性、課題及び改善策
				肯定的 評価割合	生徒 (%)	保護者 (%)	総合 評価					
生徒一人一人のマナー・規範意識を高めることで、自他の人権を尊重し合う豊かな人間関係の形成の支援に努める。	① 明るい校風づくり、マナーアップ指導の充実により、よりよい学校文化の醸成（敬語・返事・言葉づかい、きちんとした制服着用、情報マナー、時間管理、掃除の徹底）	・登校指導によるマナーアップ ・各教室等の整理整頓状況の確認 ・安全で快適な学習環境づくりの推進 ・生徒会及び各委員会活動の充実 ・実験実習による倫理観、規範意識の涵養	服装・髪型のルールが守られ、挨拶がよくおこなわれるはつとつとした雰囲気のある学校だと思いますか。	90%	76.2	89.3	B	B	B	・登校指導 ・教室、廊下の整理整頓チェック ・ふるまい向上頭髪服装指導 ・各種健康診断後の個別指導 ・学年集会、HR指導 ・環境改善リーダーの育成 ・チームでの取り組みを重視 ・鍵かけ甲子園の参加	・登校指導によるあいさつの励行や明るい雰囲気の学校づくりに効果があったが、2学期以降遅刻者が増加したこともあり一部の生徒にルーズな面が見られた。 ・教室内外の教育環境の整備については全体として著しく改善された。 ・保健委員会の活動は活発に行われるようになった。 ・情報モラルの向上については昨年度より不適切な書き込みは減少した。 ・多くのクラスで出席率が、99%以上となった。 ・自転車の施錠率が昨年より高くなり、自転車事故も減少した。	・登校指導におけるあいさつの励行、交通安全指導は継続して行い、明るい校風づくりをさらに進める。 ・マナーの向上に向けて教員間での意思統一を図り、どこでも誰でも同じ指導ができるようにする。 ・情報モラルについては継続して指導することが必要で、特に保護者も含めた意識の向上が不可欠である。 ・生徒会の各種委員会の積極的な活用により、マナーアップの向上と生徒の自治意識の高揚を図る必要がある。
	② 人権・同和教育の推進及び道徳教育、特別支援教育的視点の推進	・各校務分掌が連携した人権同和教育の推進 ・人権教育、道徳教育、特別支援教育的視点を入れた諸活動の実施 ・すべての授業において道徳教育の実践	教員や生徒の言葉で、不愉快な思いをするような場面はないと思いますか。	80%	68.2	83.2	B	B	B	・人権同和教育年間指導計画の作成 ・各学年の担当者と連携して、学期に1回の人権同和教育HR活動の実施 ・生徒、教職員の研修会の実施 ・人権同和教育、道徳教育的視点での授業実践	・人権同和教育についての統一HR活動は改善されて実施できた。 ・いじめに関するアンケートの実施。教職員研修（人権同和教育、ハラスメント）の実施。3年生対象の講演会を実施。 ・学校教育活動の様々な場面で人権教育、道徳教育等の視点を踏まえた取り組みが実践できた。	・アンケートQ Uを活用した生徒理解、学級づくりを進めるとともに、人権同和教育、道徳教育を学校の教育活動全体を通じて行うために、これらの視点を確実に盛り込んだ展開とよう計画することが必要である。 ・人権同和教育、道徳教育的視点を踏まえた授業を全ての教科および科目で実施する取り組み、引き続き推進していく。
	③ 良きクラスづくりの推進（学びあい・認めあい・支えあい高めあう集団づくり、学校行事等での育てたい生徒の力等の明確化）	・すべての学校行事をとおして自他を尊重する態度の育成 ・集団宿泊研修、スキー研修をとおした自律性を養う指導の充実	集団宿泊（1年）、スキー研修などは、良いクラスづくりに効果があると思いますか。	90%	91.9	94.4	A	A	A	・体育祭、収穫祭など学年の枠を超えた学校行事の実施 ・生徒会主催行事の実施（生徒総会、壮行式、球技大会など） ・学年、クラスの連帯感を育成する取り組みの実践 ・学期末の生徒面談や学年集会の実施	・集団の中で個人の役割等を自覚した行動ができた。（学年行事では、サンレイク研修およびスキー研修など） ・生徒会執行部を中心とした取組が全校生徒に浸透した。 ・上級生が下級生を指導し、学校全体としての動きが広がってきた。 ・アンケートQ-Uの活用に関する教職員研修を実施した。	・学びあう集団、助け合う集団、高めあう集団としての学級経営における宿泊研修の意義を理解し、改善を加えながら取り組んでいく必要がある。 ・各学級の望ましい人間関係を形成し、自治機能を高めるために課題を明確にして、その課題解決に向けた取り組みを実践していく必要がある。
	④ 生徒会、部活動、農業クラブ、家庭クラブなどの活動を通じた自治能力の育成、主権者教育の推進及び各委員会活動の充実	・部活動、生徒会活動等とおして自らを高めようとする取り組みの推進 ・各種委員会活動の改善、充実 ・良好な人間関係の構築に向けた取り組みの強化	部活動やクラブ活動、生徒会活動などが活発に行われるような指導体制と環境があると思いますか。	90%	91.5	93.1	A	A	A	・図書委員会による図書館だよりの発行 ・図書委員会による「本の紹介紙」作成 ・生徒組織による松農発表会での進行（アナウンサーによる技術指導） ・収穫祭での生徒会企画によるステージ発表 ・農業クラブ役員と開放農園利用者との交流会の実施	・図書委員会の年間計画に基づき実施できた。生徒にも内容が好評であった。 ・部活動では、好成績を挙げるなど活性化に各部とも取り組むことができた。 ・生徒自ら企画立案を任せられたHR活動の実施などにより学級活動が円滑に行われた。 ・収穫祭では生徒会企画によるステージ発表を実施し、観覧した保護者からも好評であった。	・生徒会をはじめ生徒の自主的な活動が見られた。今後一層進めていくためには、委員会活動をさらに活性化させていく必要がある。 ・農業クラブ活動については、クラブ員としての自覚を高めるなどの改善が必要である。 ・顧問の専門性などを考慮し、部活動の精選を行う必要がある。
自主的な学習習慣を身に付けさせることで、社会で通用する学力の基礎を確立させるとともに、個に応じた進路指導を推進する	⑤ 基礎・基本の確実な定着（知識・技術の確実な習得、見通しを立て、振り返りを導入した授業の徹底、読書力の向上、家庭学習の充実、アグリマイスター・F F J検定・資格取得等学習成果の見え易い推進）	・補習の在り方の検討、改善 ・学校図書館活用教育の推進 ・家庭学習を充実し、自ら学ぶ体制を確立させるために、家庭学習時間調査と支援 ・課題研究の充実	本校ではわかりやすく興味関心の高まる授業が行われていると感じていますか。	90%	83.0	90.8	B	B	B	・徹底した朝読書の実施 ・全教員による小論文指導、面接指導の実施 ・進路ガイダンスの実施 ・図書館活用教育の推進に向けた取り組み ・家庭学習時間調査の実施 ・学習環境の整備	・朝読書が統一して行えるように実施できた。 ・全教員による小論文指導、面接指導を実施し、きめの細かい指導ができた。 ・各定期試験前1週間学習時間調査を実施し、クラス単位での面談等に有効活用してもらえようと呼びかけた。 ・他校の図書館の参観や研究会、研修会への参加を通して図書館活用の情報収集を行った。	・朝読書は継続して実施したが、図書研修部の働きかけなどにより落ち着いて状況が定着した。 ・学力向上に向け、自ら学ぶ、学びあう姿勢を作っていくために各分掌等が連携して取り組む必要がある。 ・やらなくても大丈夫という意識をかえること。 ・全教員による小論文指導、面接指導は継続して実施するが、これらについては系統的に積み上げていく必要がある。
	⑥ 探究的学習、言語活動の充実（課題研究、総合的な学習の時間、教科・科目でのプロジェクト学習、表現・分析・論述、説明する力・質問する力の育成）	・新聞等のメディアを活用した図書館のPR ・SPIの効果的な活用と対応力の向上 ・周囲と協力しながら学ぶ態度の育成	学習活動にしっかり取り組み成長できたと思いますか。	90%	91.1		A	A	B	・SPIを活用した学習習慣の定着 ・映像資料を活用した図書館オリエンテーションの実施 ・課題研究、資格取得等における目標達成	・SPIの全課題の提出率は100%であり、取り組みを工夫することで効果があった。 ・各学科で積極的に資格取得に取り組む成果があった。（専門的な資格取得者がのべ300人以上となった）	・成長できたと感じる生徒を増やすこと。日々の授業を基本に、わからなかったことがわかるようになる、できなかったことができるようになる実践を積み上げていくことが必要である。 ・資格取得については生徒に達成感や成就感を持たせ、職業観を育成する意味からも発展的に取り組んでいく。
	⑦ 教科ごとの到達目標の設定（CAN-DO LIST、一人複数回の授業参観、教科で育てる、力がつく試験問題の作成）	・登校時における声かけ指導 ・出席率、遅刻を意識したクラス経営 ・外部と連携し研究、近隣の学校及び事業所からの情報交換 ・課題研究での「松農発表会」運営	本校での遅刻指導や始業時間厳守の取り組みは時間を守る習慣の確立に役立っていますか。	90%	90.6	95.7	A	A	A	・ICT機器活用研修会の実施 ・収穫祭でのプロジェクト学習のミニ発表会の実施 ・3年生での3分間スピーチの実施 ・各学科での課題研究発表 ・教員自らによる授業開始時間の厳守	・教育センターの出席講座を利用し研修会を実施することができた。その効果もあり、ICT機器を活用する授業を実施した教員が15名に増えた。 ・ライフプランの発表では、原稿を見ずにできる生徒や時間内に発表できる生徒がほとんどであった。 ・3年生では、課題研究の提出期限を守る生徒が85%であり内容とともに意識も向上した。	・ICT機器の充実（台数の確保：特別教室への設置）が望まれる。 ・ライフプランやプロジェクト学習など発表に対する苦手意識を払拭させ、校内にとどまらず校外でも発表できるような力を付けることが必要である。 ・校外の関係団体や事業所と連携した取り組みが必要である。 ・専門教科では、ドローンの撮影や散布など新技術や新品種など研修の機会を持つことが重要である。
	⑧ 実験・実習及び体験的学習の場の充実（身についた知識・技能の活用、報告書・レポート指導）	・全教科、全教員対象の生徒による授業評価の実施 ・授業公開週間の実施 ・定期的な小会議（教科会・学科会）の開催による情報の共有	授業公開や生徒による授業評価は教員の授業力向上に役立っていますか。	80%	79.0	85.0	A	A	A	・よりよい授業づくりのための授業評価アンケートの実施 ・一人2回以上の授業公開、授業参観の実施 ・定期的な会合の開催（総合学科運営、総合学科会、学年会等）	・授業評価アンケートを実施し、管理職との中間面接で結果の分析や今後の課題等を検討した。 ・10月に1人2回以上の授業公開と授業参観を実施した。 ・定期的な会合の他、各職員室での授業の進め方や生徒の反応、有効な教材などについて意見交換し授業改善に努めた。	・教科ごとの到達目標は、生徒の実態を踏まえた目標設定、評価を行うことが必要である。 ・授業公開、授業評価は継続して実施し、改善すべきところは改善するという問題解決への積極性や柔軟性が必要である。 ・授業においては、見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動を計画的に取り入れること。 ・すべての学科、すべての教科でシラバスを作成し、生徒、保護者に公表すること。
⑨ 実験・実習及び体験的学習の場の充実（身についた知識・技能の活用、報告書・レポート指導）	・授業、実験実習記録簿を毎週提出 ・作文コンテストなどへの参加による表現力の向上	校外学習や体験的な学習は、知識や技能の習得、物事に対する考え方の確立に役立っていますか。	95%	95.7	97.7	A	A	A	・地元企業等と連携した企業見学、インターシップの実施 ・地域クリエイトの校外学習による地元文化、産業等の理解促進 ・福祉系列の盲学校等と手話や介護技術の研修 ・各種作文コンテスト等への積極的な参加	・各学科、各系列で計画的に実践できた。 ・特に、地域クリエイト系列では本年度校外学習を新たに展開し、外部講師の協力を得ながら推進した。（年間18回の校外学習を行った） ・文章力の向上は、様々な活動をおして取り組むことができた。	・報告書、レポート、感想文等生徒の文章力を高める指導は継続的に行い、さらに充実を図っていく必要がある。 ・各科とも課題研究の充実を図っていくことが今後重要である。	

経営目標	重点目標	目標達成のための方策	評価指標 【アンケート項目】	目標値	アンケート結果			教員 評価	外部 評価	主な取り組み	達成状況	今後の方向性、課題及び改善策
				肯定的 評価割合	生徒 (%)	保護者 (%)	総合 評価					
自主的な学習習慣を身に着けさせることで、社会で通用する学力の基礎を確立させるとともに、個に応じたキャリア教育、特別支援教育を推進し生徒一人一人の能力向上を図る。	⑨キャリア教育の推進（系統的・組織的な推進、企業等との連携強化、インターンシップの改善、高等学校基礎学力テスト等への対応）	・美化作業等の奉仕的行事の効果的な実施 ・進路指導支援ツールの導入 ・キャリア教育年間指導計画の作成と目標設定 ・卒業生を講師とした進路学習会の企画 ・保護者を対象とした「進路ガイダンス」の実施	インターンシップや校外研修などの取り組みは成長に役立っていますか。	95%	95.7	96.7	A	A	A	・年3回の美化活動の工夫改善（保健委員会の活動に位置づけ） ・基礎学力向上に向けての研修会への参加 ・外部講師による進路学習、進路ガイダンスの実施 ・上級学校への進学者の動向調査 ・4日間のインターンシップの実施	・保健部を中心に勤務、社会奉仕の精神、助け合いの精神を涵養するために美化活動を実施し、取り組みは昨年度より向上した。 ・卒業生による講演会を実施した。 ・生徒の進路希望に応じた進路学習会を実施した。 ・2年生が4日間のインターンシップを実施し、報告書の作成や発表会を行った。	・キャリア教育の推進にあたっては、単に進路指導部や農場部の取り組みや、イベントを実施するという取り組みだけでなく、学校の教育活動全般にわたって取り組んでいく必要がある。 ・全体計画のもと、学科、学年における年間指導計画を作成し、組織的、系統的に進めていくこと。
		・資格試験に積極的に取り組ませる仕組みの構築 ・資格取得を社会性、職業間の育成の向上につなげる ・科学的に実践する態度を育成できる資格取得の取り組み推進	資格試験に積極的に取り組む指導体制が整っていますか。	90%	88.4	88.5	A	B	B	・簿記検定、農業技術検定、危険物取扱者、測量士補、レタリング、介護職員初任者研修など専門性を深める資格取得の推進 ・漢字検定、数学検定、英語検定等の実施 ・資格取得に向けた補習の実施	・資格取得状況【（）内は人数】 農業技術検定3級（25）危険物取扱者乙4（6）、測量士補（4）、レタリング2級（1）、3級（15）、2級土木施工（4）、初級バイオ技術検定（10）、漢検2級（8）準2級（22）、数検3級（11）、被服3級（3）、食物調理2級（0）、3級（3）、保育3級（10）、介護職員初任者（21）	・資格取得者数の増減が多少見られるが、新たな資格への取り組みが見られた。今後も生徒の興味や関心、進路保証へも繋がることから研究が必要である。
	⑩個々の生徒の適正に即した進路開拓（全教員による企業訪問、面接・小論文の充実、情報共有）	・全教員による企業訪問の実施 ・進学を中心とした進路情報の収集 ・教員間及び保護者との積極的な情報交換の推進 ・個別指導の充実	進路を実現するために十分な指導、情報提供がなされていますか。	90%	96.5	88.7	A	B	A	・全教員による就職先企業への訪問による求人開拓と企業理解を進める ・地域別企業説明会への参加 ・綿密な生徒、保護者との話し合い、面談 ・3年生が伝える進路体験記作成	・全教員による企業訪問を実施した。 ・県内求人数が増加、就職内定率が例年と比べ上昇（92%1月末）するなど、成果が上がった。 ・進学者合格率100%など、個々の生徒に適した対応を行い、就職、進学ともに成果をあげている。 ・進路体験記は3年生全員が書いた。	・全教員による企業訪問は継続して実施し、企業の情報や求める人材を把握し、将来の社会人、職業人として活躍できるよう生徒指導にあたることが重要である。 ・進学者の情報収集等を学校訪問を含めて積極的に行っていくことが必要である。
	⑪卒業後の進路実態把握（実績のある学校への訪問及び調査、就職先への聞き取り調査などを通して本校教育活動の再評価）	・3年部を中心とした入学実績のある上級学校訪問 ・入試情報の収集 ・個別指導の充実								・過去4年間に卒業した生徒全員の動向について把握し、報告できた。	・企業訪問、就職説明会の機会を使って、卒業生の就職活動について情報を収集した。	・過去4年間に限ると90%以上の動向を確認できたが、離職が重なり実態把握が難しい。 ・国公立大学受験の機会を増やす方策を考えることが必要である。 ・ポートフォリオなど新しい入試制度への対応が迫られている。
	⑫特別支援教育の推進（授業のユニバーサルデザイン化に向けた連携・支援の強化、本校における通級指導実践の研究、クラス・部活動等における特別支援教育の実践）	・特別支援学校のセンター的機能の活用 ・特別支援教育に関する校内研修会の開催と関係団体の主催する研修会への参加 ・教員相互の情報共有、分掌間の連携 ・教育相談機能の充実とSCの効果的な活用	悩みを抱えたり相談したいことが生じたときに、学校は誠実な対応をしてくれる場になっていますか。	80%	79.2	86.3	A	A	A	・特別な支援を必要とする生徒の情報と支援計画の作成 ・生徒支援のために早急な対応とケース会議の充実 ・学期末における生徒面談週間の実施 ・特別支援コーディネータを中心とした支援体制の確立	・出身中学校および保護者と連携して生徒の特別具体的な状況を把握した。 ・職員会議において情報の共有を図った。 ・担任一人が抱え込まないよう情報交換が緊密にできた。 ・学期末における面談が計画的に実施できた。 ・特別支援教育に関する教職員研修を実施した。 ・学期に1回、特別支援教育委員会を実施した。	・年度当初に特別な支援が必要な生徒、配慮が必要な生徒等の中学校からの引き継ぎを確実おこない、教員の共通理解のもと、適切な支援ができる体制整備と指導内容、指導方法を検討すること。 ・障がいのある生徒については個別の指導計画、個別の支援計画を関係機関と連携し作成し、計画的・組織的に取り組むこと。 ・教育相談機能は、速やかに対応できる体制を継続していくことが必要である。
保護者や関係団体との連携を深め、地域に関わった信頼される魅力ある学校づくりを推進する。	⑬ボランティア活動の推進（一人1回以上のボランティア体験、HR活動でのボランティア活動、ボランティア活動等による増加単位対象生徒の増加）	・市内各事業者からのボランティア活動の紹介 ・進路を踏まえたボランティア活動の推進 ・各教科、科目をととしたボランティア活動の推進 ・収穫祭の新企画による意識の改革	学校が企画するボランティア活動または社会活動としてのボランティアに積極的に参加していますか。	50%	42.5	60.9	A	B	B	・学校紹介のボランティア活動については、要請があった団体を生徒に照会し、希望者を募る ・福祉系列2,3年はボランティア体験を1回以上行わせ体験記録を作成する ・生徒指導部を主管として、ボランティア体験の呼びかけ	・学校紹介（生徒指導部紹介）のボランティアは21カ所のボランティアを紹介し、延べ約140名が参加した。（サンレイク、松江医療センター、長命園、みのり保育園など） ・福祉系列では2年生に対しボランティア体験を実施した。 ・2年学年会によるアンケートでは、約1/3の生徒がボランティア活動を行っている。	・アンケートの評価項目では最も評価の低いところであるが、生徒の関心が高くなっている。今後、学校の教育活動全体の中に位置づけて、単位化とあわせながら継続的に指導していく必要がある。 ・学校紹介によるボランティア活動の参加は、今後も発展的に継続していく。
	⑭地域との連携活動の推進（学科・系列の特色を生かした連携事業の推進、収穫祭での新しい企画、松農発表会の改善・充実）	・地域と連携した取り組みを強化 園児や小学生との交流学習、まつえ市民大学、市内イベント協力、加工原料収穫体験など ・要請に応じた商品開発等	収穫祭、地域イベント参加などの地域貢献活動を通して地域に根差している学校ですか。	95%	95.7	98.2	A	A	A	・松農発表会の実施に当たり、司会者、発表者の事前研修会を実施する ・各学期において産官学連携事業の実施 ・松江市菊花展、まつえランド、だんだん営農塾への出品と参加（生物生産科） ・食の縁結び甲子園出場（食品系列） ・地域産業や地域環境に関する校外学	・松農発表会は、事前研修を生かし、生徒による運営が評価できた。 ・収穫祭は天候にも恵まれ、多くの来場者であったことと、実行委員会によるステージ発表など新しい企画が好評であった。 ・食品系列では、企業と連携して販売ができた。 ・生物生産科では、田植えや稲刈り、野菜栽培などを地域の保育園と交流しながら実施できた。 ・開放農園、販売実習等による連携は計画通りできた。	・地域との連携や外部団体との連携等による教育効果は高く、積極的に進んでいく必要があるが、生徒や教員の加重負担にならないよう計画的・組織的に行うことが重要である。
	⑮PTA活動の充実（PTA事業の見直し、及び工夫・充実による参加者の増加、PTAだよりの工夫・充実、保護者主体の取組）	・総会等でのPTA役員による働きかけ ・PTA活動の日（講演会の実施） ・収穫祭での保護者の協力依頼 ・地区部会の廃止 ・地区理事のモニターとしての意見、感想等の提出依頼	学校の発信する情報がきちんと伝わり、活発なPTA活動ができていますか。	80%	76.0	77.7	B	B	B	・「地区別懇談会」「上級学校視察研修」を廃止する ・「PTA活動の日」の「講演会」の運営をPTA役員とする ・PTA便りの紙面の充実 ・スクールメール（さくら連絡網）の運用を開始する	・「地区別懇談会」及び「上級学校視察研修」は、役員会や理事会への承認を得ながら廃止することができた。なお、「地区理事」には、学校へのモニターとしてご意見を頂いた。 ・「PTA活動の日」として、講演会を計画していたが、台風接近のため中止となった。 ・スクールメールの運用は、大変好評であった。 ・PTA便りは、カラー刷りとなったうえに写真が多く編集され、読みやすいものとなった。	・PTA活動については、それぞれの活動に対し参加者を増やすことが最大の課題である。この解決に向け、ホームページによる案内などの工夫により、情報が確実に伝わるような改善が求められる。 ・学校からの連絡、便りを見ていない保護者も少なくないことから、改善策を検討する必要がある。
	⑯広報活動の充実（HPの積極的な更新を各担当で行うこと、学校説明会の改善・充実、学級・学年通信の充実と公開）	・ホームページの更新回数 ・学校行事の報道発表 ・図書館便りの定期的掲載 ・学年通信の発行 ・緊急連絡手段（スクールメールの運用）	本校のホームページ、学校便りは充実したのになっていますか。	80%	94.3			A	A	・更新方法を全教職員へ周知 ・図書館のPR活動の活性化 ・生徒活動の掲載（部活動大会結果等） ・各学科の学習活動の情報発信 ・学校案内のリニューアル	・HPの更新回数が増加しそれに伴い、アクセス数も増加した。 ・部活動の大会結果等を随時掲載した。 ・収穫祭、学習発表会等の報道発表を実施した。 ・図書館便りの掲載など委員会の掲載も活発であった。	・ホームページを積極的に更新できる校内体制がほぼ構築できたので、継続して情報発信すること。 ・危機管理面からも保護者に対し、学校の緊急情報が速やかに伝わるよう今後も活用すること。
学校満足後	松江農林高校に進学して（進学させて）良かったですか			90%	95.5	97.5	A	A				
	施設管理や緊急時の対応など学校安全への取り組みは適切に行われていますか			90%	93.7	96.7	A	A				
	本校は、元気に気持ちよく過ごせる（お子様が過ごせる）学校だと思いますか			90%	91.1	96.7	A	A				
	松江農林高校の教育活動に満足していますか			90%	91.1	94.4	A	A				